

けん玉 低学年 1 - 2


- 体験的な活動を取り入れた事例 -

(1) 主題名 何事にも粘り強く〔1 - 2〕

(2) ねらい 自分で行わなければならないことやしようと思ったことは、最後まで粘り強く行おうという心情を育てる。

(3) 資料名「けん玉」

(4) 授業の展開例

	学 習 活 動	主な発問と児童の心の動き	留 意 点
導 入	1 顔のイラストを見て考える。 	この顔はどんなときの顔でしょうか。 ・喜んでいる顔 ・つまらない時の顔 ・がんばっている顔	自分がかんばった場面や、できなかった場면을想起させる。
展 開	2 「けん玉」を読んでよしえの気持ちについて話し合う。 3 やり切ったときの気持ちについて話し合う。 4 自分の生活を振り返る。	けん玉を練習する前のよしえはどんな気持ちだったでしょうか。 ・がんばって上手になるぞ。 ・すぐにできるようになるよ。 けん玉を練習している時、よしえはどんなことを考えていたのでしょうか。 ・できないのでやめようか。 ・参観日にできなかったらいやだな。 ・けん玉にするんじゃないかな。 ・もう少しがんばってみようかな。 ・あきらめずにがんばったからできるようになってきたぞ。 ・練習をやめないでよかったな。 ・もっと上手になるぞ。 発表が終わり、みんなの拍手を聞いた時、よしえはどんなことを考えたでしょう。(ワークシートに書く) ・あきらめないでよかったな。 ・がんばった甲斐があったな。 最後までやってよかったことや、今がんばっていることを教えてください。 ・縄跳びができるようになった。 ・計算カードが速くなった。	最初は、期待と意欲をもって始めたことをおさえる。 実際にけん玉を用意し、児童に体験させる。 がんばる気持ちとやめてしまいたい気持ちの2種類のペープサートを用意し、よしえの葛藤を表現させる。 だんだんと上達していく時のよしえの気持ちを考えさせる。 しんどいことをやめずにやりきったときの喜びや満足感に気付かせる。 日常の様々な場面でがんばっている児童を紹介する。
終 末	5 教師の説話を聞く。	・がんばることってすてきだな。	努力してできるようになった事について話す。

けん玉

おはじき、おてだま、「ム、あやとり、メン、」そして、けん玉……。いま、生かつかのじかんに、むかしのおそびについてがくしゅつしています。

じぶんのやりたいあそびを一つえらんでれんしゅつし、さんかん日にはっぴょうすることになりました。

よしえは、けん玉にきめました。できるようになりたかったし、おにいちゃんがじょうずなので、おしえてもらえると思ったからです。

いえにかえると、さっそくおにいちゃんとれんしゅつをはじめました。

カチン…カチン…。

「あれえ。なんで、できないのかなあ。」

すぐにできるようになると思っていたのに、なかなか大ざらにものりません。十ぶんくらいれんしゅつすると、だんだんいやになってきました。

おにいちゃんは、やさしくおしえてくれましたが、よしえには、なかなかできそうにありません。

とうとう、よしえは、けん玉をへやのすみにほうりなげて、すわりこんでしまいました。そして、じつとすわったまま、けん玉を見つめていました。

どのくらいじかんですが、たったでしょう。よしえは、立ちあがると、ほうりなげたけん玉をひろいました。そしてまた、れんしゅつをはじめました。

カチン…カチン…。玉がさらにあたっておちます。いきおいをつけすぎて、かおにあたってしまうこともあります。カチン…カチン、カチン…カチン…。

「ええと、ひざをまげて、手くびをしっかりと、目の高さで…。」

よしえは、おにいちゃんにおしえてもらったことを思いだしながら、なんどもなんども、カチン…カチン…。

ひざが、いたくなってきました。うでが、だるくなってきました。のともかわいってきました。それでも、カチン…カチン…。カチン…カチン…トン。

「あっ…」

はじめて大ざらにのりました。

「おにいちゃん見て、見て。のったよ。のったよ。」

よしえはうれしくなっておにいちゃんにいいました。

カチン…カチン…カチン…トン。十かいに「かいくらい、のるようになりましてた。

カチン…カチン…トン。四かいに「かいくらいのもようになりました。

ばんごはんのあとも、よしえはずっと、カチン…トン…カチン…トン…トン。つぎの日も、またつぎの日も、よしえはれんしゅうをつづけました。

さんかんびの日がきました。いよいよ、よしえのばんです。よしえのけん玉の玉が、まず大ざらにトン。つぎに小ざらにトン。そして中ざらにトン。さいごにけん、ストンと入りました。

「すいね。」

「じょうずだね。」

おうちの人たちや、ともだちの大きなはくしゅがきこえます。

よしえは、みんなのかおをみて、にっこりしました。

活用に生かすための実践報告

「けん玉」

1 主題の設定

・児童にとって、自分の能力の向上や新しい知識・技能の獲得に根気強く取り組むこと、また、自分でしようと考えたことやしなくてはいけないことに対して、最後まで粘り強く一生懸命に取り組むことは、自立していく上で大切な資質であると考えます。苦しくてもがんばって成し遂げること、そして、少々のことであきらめずにがんばることが自分を高め、生活の質や心情を豊かにしていくことにつながることをこの資料を通して伝えたい。

・この頃の児童の様子を見ると、自分に自信があることや目新しいことに対しては意欲的に取り組むが、興味・関心が薄いことや時間のかかる活動や反復練習が要求される活動に対しては、自分にはできないと途中であきらめてしまったりする場面がよく見られる。

・本資料を通して「がんばること」そのこと自体に価値があるということ、「自分には努力すればできるようになることがたくさんある」ということに気付かせたい。

2 指導過程の工夫

・指導に当たっては、実際にけん玉をさせてみたり、ペープサートを使った役割演技をしたりする活動を通して、練習をやめようか、それとも続けようかと葛藤する主人公の心情に十分に寄り添わせ、それを自分の経験と重ねることで共感させたい。がんばって努力してよかったという達成感やくじけそ

うな気持ち乗り越えることができたという自己肯定感、そして、途中であきらめなかったからこそ味わえた満足感に気付かせることで、今後、何事に対してもあきらめずにがんばろうという意識を高めたい。

3 発問の工夫

・主人公の葛藤に十分共感させることが、迷いを乗り越えて練習し、できるようになったときの満足感を児童が共有することにつながる考えられる。そこで、主人公の「がんばろうとする気持ち」と「やめてしまおうという気持ち」の両方を大切に扱いたい。

4 児童の反応（授業後の感想）

・低学年の児童には、体育科での縄跳びや逆上がりや、生活科でのコマやけん玉などの昔から伝わる遊びなど、本資料の主人公と同じ経験をする機会がたくさんあるので、共感しながら資料を読むことが容易であった。

5 実践者からの一言

・「がんばることは楽しいんだ」という気持ちをもてるように、「がんばる機会」を普段の実践の中でたくさん用意し、児童のがんばりに対してはいつもあたたかい声かけをするようにしたい。

（東浄小学校 梅田広晴）